

第19回岡山県畜産共進会 審査報告(抜粋)

今年の岡山県家畜がどのように改良されたか？を審査するお祭りが去る10月15日から17日までの3日間津山家畜市場で盛大に行われた。岡山県が日本に誇る代表家畜はグラビヤで紹介した通りで、この県畜産共進会の最終日、優秀牛の市中パレードが津山市商店街をねり歩いたが、買物中の奥さん連までが立派な成牛をみて、改めて岡山家畜の優れているのを認める歓声がわき上っていた。が、岡山家畜が日本をギョウじる為には今一步改良を進めなければならない点が残されている。当共進会の審査報告を抜粋して今後の改良の参考に供したい。

第1部 肉用種々牛の部

1、出品と審査区分(省略)

2、審査方針

特に今年は肉用能力の高いものをとということで、本年から改正実施されている新しい減率により次の点を重点とした。

- (1) 黒毛和種発育標準の中間値以上の発育を示し、均称体積に富むこと。
- (2) 後軀、特に腿及び尻の形状のよいこと。
- (3) 資質及び乳徴のよいこと。

3、一般概況

今回の出品は96頭で、雄はやや不揃いであったが、雌は全体的によく揃い体積のあるものが多く、本県畜牛が時代の要求に沿って改良が進んでおり、昨年より相当秀でていることは喜びにたえません。

これら出品牛の共通の美点は発育よく、体積に富み、中軀(背腰、助腹)が優れていることです。発育は標準の中間値以下のものがなく結構ですが、上限をやや超えるものがあつたことは今後研究を要します。次に難点としては後軀のうち尻、腹及び腿の形状に難のあるもの、体深不足で長脚のもの、肘後と下脰の充実を欠き、ために体下線が平直でないものが挙げられます。尚肉用価値の観点から今後も資質、殊に被毛皮膚には特に注意すべきでしょう。

審査区分別に概評してみますと、まず雄の上位入

賞牛は例年に劣らぬ優れたものでした。特に良い点では中軀並びに後軀の形状均称、資質などでありました。しかし、改良の根源をなす種雄牛であるので軀深、軀幅の増加により一層の努力が必要でありましょう。

次に雌1区は54頭の出品であり、発育過程のものにもかかわらず、よく揃い優秀なものが多く心強く感じました。一般に発育均称よく、体積に富み、中軀前軀はよく殊に背腰は改良のあとが大きかったと思います。

更に雌2区は25頭で1区以上によく揃い優良牛が多かった。一般に発育良く体積に富み、中軀殊に体上線の優れたものが多かった。しかし、長脚体深不足のもの、後軀の形状、腿の充実不十分なものがあつました。

4、将来改良を要する点

- (1) 時代の要求する肉用能力の高い種牛に改良するため、均称、体積の良いもの即ち長脚でなく体深体幅のあるもの、体下線特に胸底、肘後及び下脰部の充実を図り、更に腿の充実を図る必要がある。
- (2) 経済性の高い肉用牛を生産するため資質特に被毛皮膚に一層の改良が必要。
- (3) 育種登録並びに種牛改良基地の出来た当県としては、時代の要請にそつた商品価値の高い優良種牛の生産育成にもつと高い意識が望まれる。

第2部 乳用種々牛の部

1、出品資格及び出品区分(省略)

2、審査方針

特に本県乳牛の共通の欠点で改良を要する体質強健、乳器良好なことに重点をおいた。

3、一般概評

ホルスタイン種は経産、未経産、ジャージー種は一括して3区に分けて審査を行いました。ホ種経産牛の出品数が少なかったことは寂しい限りであります。

岡山畜産便り 1963.11

ホ種未經産区では優秀なものばかりで、発育標準をはるかに超えており、従来からの美点である体積及び中軀の充実に加え、資質及び乳房の付着等に改良の跡が見られました。尚今後の改善点を申しますと、月令の進んでるものにやや発育不良のものが見られ、更に従来指摘して来た肢蹄特に繋の悪いものがかなり見られたが、多頭化傾向にある酪農経営では、運動も不足勝ちになるので注意願います。

次にホ種経産牛の区ですが、出品数僅かに8点であり、これで本県経産牛を批評することは的を得ませんが、従来に比べ体積はよく充実し、資質は改良されていましたが、乳房の形の悪いもの、肢蹄不良のものが相変わらず見られました。

更にジ種ですが育成技術に進歩が見られ、特に発育は良好です。がジ種の特性に反する肢蹄の弱いものがかなりあり、又ホ種の出品者に較べ出品技術が劣っていることは今後一層の御精進をお願いいたします。

4、将来改良を要する点

ホルスタイン種

(1) 後軀の改良は進んでいるが、尾根部の粗野なものや臍の位置の低いもの、坐骨幅の足りないものなどあるので種雄牛の選定に注意すること。

(2) 前乳房の付着を改良すること。

ジャージー種

(1) 導入したものに較べ背腰が弱いので、背腰を強く後軀を改良すること。

(2) ジ種の特性である運動性の基礎となる肢蹄を強くするよう改良すること。

第3部 種豚の部

1、出品資格及び出品区分(省略)

2、審査方針(省略)

3、一般概評

今回より出品を県内産に限定した。ランドレース種は広く一般の方々に御認識を頂く為に参考出品しました。更に規格を統一する意においてヨークシャー種では月令を10~15ヵ月のものと限定した関係もあり、ヨ種では不参加の地区もあり出品数13頭であったことは残念であります。

一般的に出品豚は、体型、資質、及び出品技術と

もに一段の進歩の跡が認められ、発育良好、体積に富み、中軀後軀の充実も良好、肢蹄も強健になってきているが、一部に中後軀の幅と腿の発達に乏しく、標準に達しないものがあつた。

全般的に品位に富み、品種の特徴を備えておりましたが、種豚としては過肥で肉緊りに欠けているものが散見されました。乳器は比較的良好のようでした。

ラ種は全く粒揃いで優劣が決め難く、新しい品種の今後が期待されます。

4、将来改良を要する点

従来本県は養豚に関して後進的であつたが、最近の豚肉需要の増大から急速な改良増殖が叫ばれ、先進県から優良種豚スウェーデンからラ種が導入されておりこれら種豚をもとにして改良を進め、本県独自のタイプの種豚造成が必要です。

そのためには種豚登録事業を更に推進し、組織的な改良を行う必要があります、今後は優良種雄豚を厳選して計画的な交配を行うことも重要であり、優秀な種豚を県内で生産、育成する必要があります。

更に経済性の高い豚を造成するため、能力検定試験を行う必要がある。

最後に明年11月に愛知県において、第5回の全日本豚共進会が開催される予定であり、これには本県も初めて参加することになっているので、初陣として遺憾のなき成績を収めるよう、今から何分の努力をお願い致します。

(完)